

第 15 回 shiseido art egg

重力の光 石原 海

Gravity and Radiance

Umi Ishihara

SHISEIDO GALLERY

会期：2021 年 9 月 14 日 (火)－10 月 10 日 (日)

平日：11：00－19：00 日・祝：11：00－18：00

毎週月曜休 (月曜日が祝日にあたる場合も休廊)

主催：株式会社 資生堂

※新型コロナウイルスの感染状況により、スケジュールおよび
内容に一部変更が生じる場合があります

「shiseido art egg」は、「新しい美の発見と創造」という考えのもと、オープン以来100年以上にわたり活動を継続してきた資生堂ギャラリーの門戸を新進アーティストに開く公募制のプログラムです。15回目となる今回は、全国各地より243件の応募をいただきました。今回も資生堂ギャラリーの空間を活かした独創的な展示プランが多く提案されましたが、選考の結果、独自の視点から今日の世界の新しい価値観や美意識を表現する、石原 海(いしはら うみ)、菅 実花(かん みか)、中島 伽耶子(なかしま かやこ)が入選し、それぞれの個展を9月～12月にかけて開催します。

3名の応募プランには、不確実・不安定と言われるこの時代の危うさや希望の在処を問う意識が共通して秘められ、あらためて鑑賞や作品への参加を含む「アートの体験」について考えさせられるものです。展覧会を通じて、アートだけが提供できる経験を共有しようとする姿勢には、先行きの見えない時代の中で新しい価値を生み出していく貴重なヒントが孕まれているのではないのでしょうか。

第 1 期に展示する石原は、愛、ジェンダー、個人史と社会をテーマに、実験的な映画作品やビデオインスタレーションに取り組んでいるアーティストです。現実の出来事を軸に、フィクションや物語的な要素を加えて構築する作品は、現代社会の一面や心の機微を丁寧に捉えます。近年は、イギリスの新人アート賞「Bloomberg New Contemporaries2019」の入選や、ロッテルダム国際映画祭に 2 作品が同時に選出されるなど、美術と映画の領域で活躍の場を広げ、注目されています。

今回は、北九州にある教会に集う元生活困窮者や教会関係者とともに、聖書を題材にした演劇を行い、撮影しました。大展示室では、この演劇のパートに、演者へのインタビューを織り交ぜた映像作品を上映します。インタビューは、様々な背景を持つ元生活困窮者や、困窮者支援を行う人々がそれぞれの人生を語る姿を記録したものです。これまで、自身の経験や現実の出来事を組み込んだ作品を発表してきた石原が、他者の現実とわたりあうことに挑んだ本作は、シモーヌ・ヴェイユの『重力と恩寵』からも影響を受け、苦しみや許しとはなにかを追求したものであると言えます。この展示プランは、教会に集う人々と共同作業で、社会の現実と踏み込んでいきながら、映像を作る力業とも言える内容であり、ヴェイユの経験*を北九州の教会での体験に置き換え、教会に集う人々を行う演劇をメタフィクションとして現実と交差させる「映画インスタレーション」がどのような身振りを顕在化させるのか、期待を込めて選出されました。映像作品を中心に据えながら、小展示室のインスタレーションへと展開していく本展覧会は、苦しみや生きる意味など、普遍的なテーマを問う場となるでしょう。

*伊藤俊治氏審査評「複数の工場で未熟工として長く働き、疲労と病いでクタクタになったヴェイユがポルトガルへ赴き、一人立ち寄った夜の寒村で初めて聖性に直接触れ、美とは真理に至る唯一の道であることを確信する。この世界はひたすら下落へ向う重力に支配され、それから逸れようとしても重力に支配された精神は誤謬を繰り返す。だから自ら高まろうとするのではなく、待ち望むという姿勢が望まれるのだ。下落から逃れ、高みに昇るには恩寵によるしか無い。」より

いきなり北九州に住むと決めたとき、アタシは途方に暮れていた。こんな混沌とした状況の中で自分の人生をどう進めたらよいかわからなくなっていたし、とにかく疲れ果てていた。数年前に友人に連れられて教会に寝泊りしていた生活の記憶だけを頼りに、地元でもない土地にまた戻ってきたのは、もうなんていうか、祈りでもしないと生きてることに耐えきれなくなっていたからだと思う。

北九州に連れてきてくれた友人の親は牧師と生活困窮者支援をやっていて、アタシも徐々に教会に通うようになった。まだあまり知り合いのいない土地で、教会の人たちと過ごしているうちに、ここにいるみんなと一緒に作品を作りたいと思うようになった。この教会に集う、傷ついた愛すべき罪人たちの人生を記録することが、自分にとってすごく重要なことに思えたから。

『重力の光』は、様々な背景を持ち、教会に集う老若男女たちと作り上げたイエス・キリストの十字架と復活を描いた受難劇、そしてそれぞれのインタビューで構成された映画インスタレーションである。生きているだけで、重力に引っ張られて下へ沈んでしまいそうな気持ちになるけれど、祈ることで一瞬だけ重力から解放されてふわりと浮かぶことができる、その瞬間を祝福するように本作を制作した。

石原 海

①《重力の輪》2021 HDビデオ 3分
出演：下別部 為治
音楽：荒井 優作

②《重力の光》2021 HDビデオ 30分

開始時刻：
11:00 / 11:30 / 12:00 / 12:30 / 13:00 / 13:30 / 14:00 / 14:30 /
15:00 / 15:30 / 16:00 / 16:30 / 17:00 / 17:30 / 18:00* / 18:30*
*平日・土曜日のみ

出演：菊川 清志 イエス・キリスト
森 伸二 弟子(ユダ)、民衆
藤田 信子 天使
石橋 福音 天使
村上 かな 弟子、民衆、天使
下別部 為治 弟子、民衆、天使
西原 宣幸 弟子、民衆、マリア
川内 雅代 弟子、民衆
奥田 伴子 弟子、民衆
奥田 知志 牧師

監督：石原 海
プロデューサー：AKIRA OKUDA
撮影：八木 咲
録音：川上 拓也
制作：柿本 絹

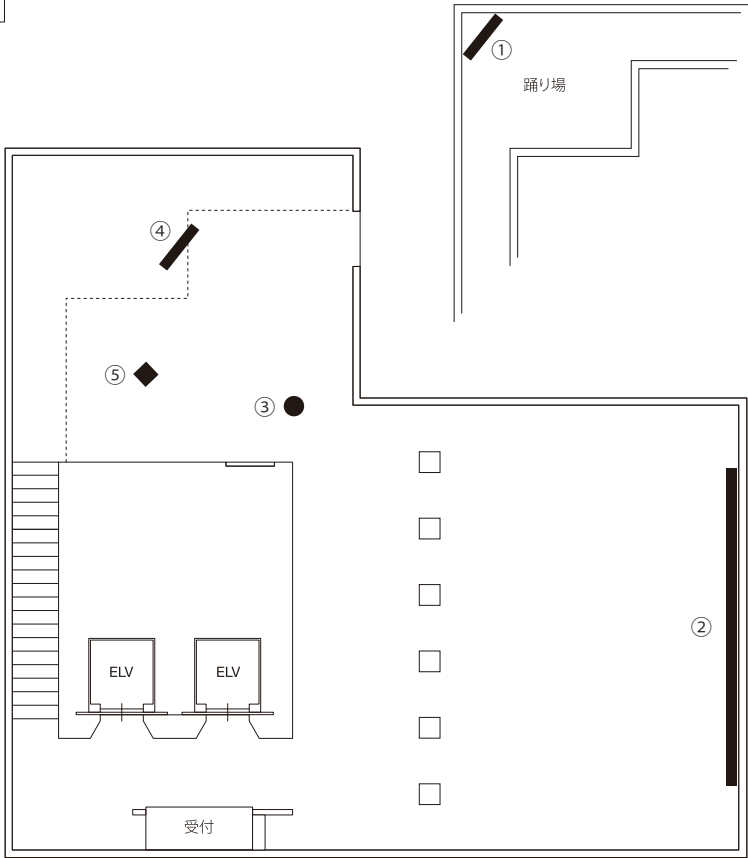
撮影助手：杉野 晃一 (TONPETTY Inc.)
美術：中村 哲太郎
美術：前田 巴那子
照明：島村 佳孝
照明助手：伊地 知輝
ヘアメイク：宇良 あやの
ヘアメイク：竹中 優蘭
衣装：塚野 達大
総務：木村 瑞生
コーディネーター：谷瀬 未紀 (Pikaluck)
協力：桑島 寿彦 / つかの みき / 林 伸弘 / 金子 詩織 /
東八幡キリスト教会
ロケーション：枝光本町商店街アイアンシアター

※映像作品のみの撮影、スタッフの撮影はお控えください

③《重力の揺らぎ》2021 ムービングライト

④《弟子たちの儀式》2021 HDビデオ (ループ再生)
出演：柿本 絹

⑤《イエス・キリストの身体》2021 パン



石原 海

1993年 東京都生まれ

2018年 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業

2021年 ロンドン大学ゴールドスミスカレッジファインアート学科 アーティストフィルム在学中 (休学中)
福岡県在住

主な上映

2019「狂気の管理人」英テレビBBC、BFI Southbank (ロンドン)

2019「ガーデンアパート」「忘却の先駆者」ロッテルダム国際映画祭 (ロッテルダム)

主な個展

2017「頭のいかれた悪魔の泥沼」TAV Gallery (東京)

主なグループ展

2021「ジギタリス あるいは1人称のカメラ」石原海、遠藤麻衣子、長谷川億名、細倉真弓」Takuro Someya Contemporary Art (東京)

2019「Bloomberg new contemporaries 2019」South London Gallery (ロンドン)